

社会福祉法人 木の芽福祉会

令和6年度 各事業計画

御影倶楽部 多機能型	就労継続支援事業B型 御影倶楽部
	就労移行支援事業 エム・ワークス
	就労定着支援事業 エム・ライズ
	自立訓練(生活訓練)事業 リチェルカ

咲くら工房 一体型	就労継続支援事業B型 咲くら工房
	就労継続支援事業B型 ひらめの家

多機能型 御影倶楽部
一体型 咲くら工房

地域センター 支援活動	わかば：東灘区
	あんず：灘区

事業所 支援 相談	いろは
-----------------	-----

事業所名	御影倶楽部		定員	24名	管理者名	宇野大典
事業名称	就労継続支援B型		障害種別	精神障害、知的障害、身体障害		
スタッフ体制	管理者兼サビ管1名、職業指導員2名、生活支援員1名(非常勤)、目標工賃1名					
令和5年度 事業総括	主な事業計画の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> 新規契約利用者は6名。法人内からの紹介だけではなく相談支援事業所からの紹介で毎日の利用が定着する利用者もあり、前年実績よりも利用日数が増加した。 下請けの取引企業数は減らしたが、障害特性にあわせた作業の個別化を図り一人ひとりに合った作業を作った。自主製品は紙漉きやコーヒーなど商品の幅を広げて売上が上がり、文字やイラストが得意な利用者の力を引き出すことも出来た。 外出レクや多機能御影倶楽部としての共同イベントやプログラムを通じて、仕事以外の楽しみの機会を増やせた。わかばと同日開催で家族会も数年ぶりに実施し、御影倶楽部での様子を伝えたり家族の不安を共有する場を設けることができた。 外部講師を招いた工賃向上研修を定期的実施したほか、月1回は開所時間を短縮して職員会議や話し合いの時間を設けた。 				
	上記に対する拡大/改善課題	<ul style="list-style-type: none"> 次年度も多様な利用者が入ることが見込まれるため、支援に対する職員の一貫性を高めるための学びや情報共有に、より力を入れる。 多様な利用者のニーズや特性に合った仕事を作り出す。利用者が安心して作業が出来るよう、清潔な作業環境を作り維持する。 外出だけではなく室内でもレクやイベントを定例で実施し、作業以外の来所のきっかけを多く作る。 				
令和6年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 利用者一人ひとりがその人らしい人生を送れるよう、適性に合った作業、安心して働ける環境や人間関係、仕事以外の楽しみの機会を作り出す。 多様な障害特性や生活環境を持った利用者を支援するため、職員は学びや話し合いを積極的に行う。 				
	取組内容	支援面	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者の仕事や作業環境 <ul style="list-style-type: none"> 利用者それぞれの障害特性や得意な事を活かすことができるよう、作業の細分化や見える化、個別化を進める。紙漉きの付加価値の向上や新商品開発、イベントへの参加を通して工賃アップを図る。エムワークスとの作業共有も行う。 利用者が安全に安心して働き、外部からの訪問者にも好印象を持って貰える作業環境を作り、維持する。 ○仕事以外の取組み <ul style="list-style-type: none"> 外出レクの定例化や室内レクの実施を通して、利用者の仕事以外の楽しみや相互理解の機会を持つ。 家族会を開催し、家族との顔の見える関係性を深めたり家族の不安解消に繋げる。多機能型御影やわかばとの合同開催も検討する。 			
		運営面	<ul style="list-style-type: none"> ○職員の学び・向上 <ul style="list-style-type: none"> 法人内外での研修参加等を通して支援力を高める。 午後閉所日を定例化し、非常勤職員を含めた情報共有や会議の時間を設ける。 職員の仕事の見える化を進め、職員間の連携をスムーズにする。 			
		経営	<ul style="list-style-type: none"> 新しい利用者を増やすため、地域の関係機関、学校等を訪問する。 学生や有償ボランティアを積極的に受け入れる。 多機能型御影倶楽部やわかばと作業やプログラムを通じて交流を活発に行い、将来的な利用者確保に繋げる。 			
	利用日数	令和5年度予測	4,996日	評価	新規利用者が6名おり、また今年度から新規で入った利用者も定着しており前年度を上回った。	
		令和6年度目標	5,220日	対策	支援学校や関係機関への営業活動(パンフレット配布、紙漉きワークショップの開催等)を積極的に行う。定例で仕事以外の楽しみを提供する。	
開所日・時間		平日9:30~15:30		土日祝	月1~2回開所	
令和7年度のイメージ	支援学校卒業生から高齢化した利用者まで、障害特性や生活環境が多様な利用者集団であることが今後も見込まれる。利用者の増加に見合う作業の確保や職員の支援力向上が必要となる。また、地域の関係機関から障害種別を問わず新規利用者の増加に向けた広報活動にも力を入れる。					

事業所名		エム・ワークス		定員	6名	管理者名	宇野大典	
事業名称		就労移行支援		障害種別	知的・精神・発達・身体			
スタッフ体制		管理者兼サビ管1名、職業指導員1名、生活支援員1名（兼務）、就労支援員1名（非常勤）						
令和5年度 事業総括	主な事業計画の達成度評価		<ul style="list-style-type: none"> 年度途中で2名の新規利用者があったが、2名の就職者が出たことで利用日数の目標に届かなかった。 2名の就職者を出すことが出来た一方で、定着支援につながる前に退職した利用者(前年度末の就職者)が出てしまった。 下請け作業量を調整し、以前より座学の時間を確保することが出来た。 					
	上記に対する拡大/改善課題		<ul style="list-style-type: none"> 利用者同士で就職に対する意識を高め合える環境を作るために、関係機関（東灘区・灘区・中央区・芦屋市内の相談支援事業所）への訪問や広報活動を強化していくことで利用者を増やす。 就労後、半年間の支援を企業、利用者双方に対して丁寧に行っていく。 下請けの作業量は法人内他事業所と連携して行い、引き続き座学等の時間を確保していく。 					
令和6年度 事業計画案	基本方針		<ul style="list-style-type: none"> 座学や作業などのプログラムの拡充 社会生活セミナーやプログラムの共同参加、日常的な情報共有等を通じた法人内職員との交流の促進 利用者募集のための、関係機関への訪問活動や広報活動（見学会や体験会の情報発信、SNSの活用など）の実施と強化 様々な障害の方を受け入れる体制(支援方法、他機関連携など)づくり 					
	取組内容	支援面	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内の限られた空間での支援が多くなっているため、利用者と職員との距離感を意識し利用者が依存傾向に陥らないようにしていく。 個々の職員の得意分野を活かしながらプログラムの充実を図る。 実習および就職先として個々の利用者に合った企業を開拓していく。 定着支援につなげるためにも就職先企業と連携を取り、就職後半年間の支援に力を入れていく。 					
		運営面	<ul style="list-style-type: none"> 支援学校以外の関係機関（特に計画相談事業所やしごとサポートなど）への広報と訪問活動を行っていく。 他法人の就労移行事業所に情報収集のため訪問活動を行っていく。 SNSでの定期的な情報発信を行っていく。 障害種別にとらわれない受け入れを進めるための体制作りやプログラム作りを行っていく。 					
		経営	<ul style="list-style-type: none"> 計画相談事業所へのアプローチ(営業)を継続していく。 社会生活セミナーなどを通じて、法人内事業所からの利用者獲得にも取り組んでいく。 					
	利用日数		令和5年度 予測	558日	評価	12月に4名利用となったが、就職により2月から再び2名利用となった。安定して通所はされている。		
			令和6年度 目標	872日	対策	再び定員の半分を満たしていない状況で年度スタートとなる。広報(営業)活動の実施を最優先課題とする。		
開所日・時間		月～金 9:00～16:00		土日祝	無し			
令和7年度のイメージ		<ul style="list-style-type: none"> 障害種別に偏らない支援が出来るように工夫したプログラムを考案する。 法人内他事業所からの利用希望者を受け入れるために、社会生活セミナーやレクリエーションの共同開催などを通じて連携を深めていく。 現利用者のためにも、新しい利用者の確保を急ぐ。 						

事業所名		エム・ライズ		定員	なし	管理者名	宇野大典
事業名称		就労定着支援		障害種別	知的・精神・発達・身体		
スタッフ体制		常勤1名(就労移行支援と兼務)					
令和5年度 事業総括	主な事業計画の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初7名でスタートし2名退所(本人希望1件、契約期間満了1件) エム・ワークスとの連携により、1名が利用開始したため、6名で推移している。 ・ほとんどの利用者と月1回の面談を実施することが出来た。 ・定着支援終了者を障害者就業・生活支援センターに繋ぎ本人の安心へと繋がった。 					
	上記に対する拡大/改善課題	<ul style="list-style-type: none"> ・企業は本人と雇用契約を結んでいるため家族との関わりはしない傾向にあるが、利用者のほとんどが自己決定能力に課題があり家族からの意見に左右されてしまう方が多い。そのため、家族支援も含め求められる定着支援の幅が広がっている。 ・毎月の支援報告書の他に、電話やメールで日頃から細やかな連携が取れている企業とそうでない企業がある。 					
令和6年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の利用者とのコミュニケーションの継続強化 ・企業担当との面談を増やしていく。 ・利用者増に向けて余裕をもった支援体制を作っていく。 					
	取組内容	支援面	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の面談の目的を改めて利用者に伝える。 ・現状の悩みや不安等を掘り下げて聞き取っていく中で問題を整理し、優先順位をたてて相談する力をつけていただく。 ・相談ただけで終わるのではなく、解決に向けた助言を受けた後の実践行動および結果の振り返りをおこなう。 ・休日の過ごし方、ストレス発散法等、ワークライフバランスを共に考える。 ・契約期間終了後の支援体制について関係機関との連携を深める。 				
		運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークス利用終了後から定着支援に力を入れていき、スムーズにライズへ移行できる体制づくり ・本人への支援だけでなく企業への支援に力を入れ、情報共有により風通しのよい職場環境づくりと信頼を得る。 ・外部利用を希望される方に対し各関係者間での情報共有をしっかりと行い、地盤を固めてから受け入れが可能か否かを判断する。 				
		経営	直近では利用者減となっている。1月、2月に就職した2名が定着支援の契約に至れば増加する見込み。今後のワークスの経営動向も大きく影響する。				
	利用日数	令和5年度予測	71日	評価	2名退所(本人希望1件、期間満了1件)。1名新規利用開始。新規契約予定の方2名が契約に至らなかった(本人希望による未契約1件、自己都合退職による未契約1件)。		
令和6年度目標		75日	対策	ワークスから就職した利用者が定着支援の契約に至るまで、出来る支援を怠らないようにする。			
開所日・時間		本人の希望に合わせ決定(平日)			土日祝	なし	
令和7年度のイメージ		<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の支援の見直しを行い、個々の支援の必要性について考える。 ・ライズの他にワークスの経営の回復をはかることで安定したメンバーの確保をする。 ・引き続き各関係機関への周知と本人・企業へのこまめな支援の実施 					

事業所名	リ切尔カ	定員	10名	管理者名	宇野大典
事業名称	自立訓練（生活訓練）		障害種別	知的 精神 発達	
スタッフ体制	管理者1名、サービス管理責任者1名、常勤1名、非常勤1名				
令和5年度 事業総括	主な事業計画の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> ・4名の外部講師によるプログラムを実施できた。また、近隣のお寺掃除や灘区の地域共生拠点(あすパーク)、再度山でのボランティア(こうべ森の学校)、園芸ボランティアで地域との繋がりを持てた。更に地域共生拠点での活動でコックの方と繋がりができ、わかばと合同で昼食づくりをすることができた。更に、臨床美術士の方にリ切尔カの活動を提案したところ、興味を持って来ており講師として来てもらえるか検討中 ・こども部会に毎月出席。放課後等デイ職員や支援学校職員、各支援センター職員が出席しており、部会を通してリ切尔カを知ってもらう機会にもなっている。 ・2年目利用者4名全員の進路が決まった。1年生の進路決定に向けた実習も行っている。他事業所への見学、実習依頼をすることで繋がりも少しずつではあるが増えている。 ・夏に体験実習を実施。3期生3名の獲得と、3期生以降の実習受け入れができた。 ・SNSでの投稿を通して広く知ってもらうことができたが、頻度や内容などを工夫することで更に広げられる部分もあった。 ・利用者同士で考え行動する機会を多く作ることで利用者主体となる活動ができた。また、利用者同士での話し合いの場を持つことで相手の意見を聞く、受け止めるための機会を作ることができた。 ・個々のご家族との面談を実施することができたが、親御さんとのニーズの齟齬も見えてきた。 			
	上記に対する拡大/改善課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアとの繋がりでなく他事業所との連携が増えれば活動や交流の幅が広がり、リ切尔カを知ってもらう機会にもなる。 ・SNSの投稿頻度を増やすことで活動内容を知ってもらえる機会を増やし、投稿内容もシンプルなものに心がけることで見やすく分かりやすいものにする。また、支援学校、他事業所等への見学、営業へ行くことでSNSだけでは伝えきれない活動内容を伝えたい。 ・自分で決める機会を持つことで自己決定を促す。また、みんなで決める機会を持つことで他者理解を深めていく。それぞれの振り返りも大切にしたい。 			
令和6年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・体験、学び、交流を通して社会や自分を知り、力を伸ばして自分らしい生き方を選択して踏み出すための支援をする。 ・利用者だけでなく家族との面談も行い個別に対応していく。 ・4年目に向けた利用者獲得をしていく。 			
	取組内容	支援面	<ul style="list-style-type: none"> ・自己決定と振り返りを繰り返し、気付きを促すことで一人ひとりの自立の手助けを行う。 ・自分の意見や困りごと等の発信ができるよう、個々に合わせた支援を行う。 ・他者のことを考える機会を持つことで他者理解、受け止めができるようにする。 ・見学、実習等を通して、2年目利用者の進路決定ができるようにする。 ・1年目、2年目利用者の合同、または異なる活動を行うことで互いに刺激になるプログラム作りを行う。 ・プログラム充実のため地域との繋がりを育てる機会を探す。 		
		運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回程度リ切尔カ以外の職員にプログラムを担当してもらい、プログラムの幅を広げると共に生活訓練としての支援や活動を理解してもらう。 ・リ切尔カ主催の体験実習を実施する。 ・家族への働きかけとして、面談だけでなく外部で行われている集まりなどの場を提案することで、家庭での困りごとや学び、息抜きなどの機会を提供する。 		
		経営	<ul style="list-style-type: none"> ・支援学校や単位制高校等への広報、営業活動を行うことで利用者獲得を目指す。 ・SNSでの投稿頻度を増やし、かつシンプルな投稿を意識することで見やすく分かりやすいものにし、リ切尔カをより知ってもらうようにする。 		
利用日数	令和5年度予測	1,453日	評価	ほとんどが安定して来られていた。昨年は新型コロナによる欠席が目立った時期があったが、今年度は大きな乱れはなかった。	
	令和6年度目標	1,180日	対策	学びや経験を踏まえた、楽しく意欲的な活動ができるものにすることで通所への意欲を高められるようにする。	
開所日・時間		月～金	9:30～15:30	土日祝	イベント等に応じて開所
令和7年度のイメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の特性、訓練として必要なことを整理しながら個々に応じた支援をする。 ・地域の生活訓練事業所として知ってもらうための営業、広報活動を考える。 				

事業所名		咲くら工房	定員	20名	管理者名	野村明日香
事業名称		就労継続支援B型			障害種別	精神・知的・身体
スタッフ体制		管理者兼サビ管1名、職業指導員2名(非常勤1名)、生活支援員1名				
令和5年度 事業総括	主な事業計画の達成度評価	<p>①個別性、障害特性に合わせた得手不得手・やりがい・ニーズなど丁寧に一人ひとりに寄り添い、それぞれの充実感、達成感を感じて来所してもらえるように、作業環境や作業内容・工程、支援計画を工夫し、目標利用日数を上回ることができた。</p> <p>②下請け工賃の算出方法を月変動時給に変更し、昨年よりも軽作業の平均工賃のアップを実現できた。</p>				
	上記に対する拡大/改善課題	<p>①急増する利用者数に対して作業環境を整え、職員体制も変化するので連携強化</p> <p>②利用者が増加しても、法人の就Bの中で、平均1万円以上の高工賃を目指し、ステップアップの支援を担うこと。</p>				
令和6年度 事業計画案	基本方針	精神以外にも知的・身体障害の割合が増えてきている。まずは職員連携を強化し、それぞれの利用者の良いところや強みが輝き、お互いが理解、支えあえる運営をめざす。				
	取組内容	支援面	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は特別支援学校から卒業生2名、六甲倶楽部から移籍の利用者3名の合計5名の新規利用者となり、咲くら工房の雰囲気が大きく変わる。昨年度に引き続き、利用者それぞれの作業環境や障害特性に配慮し、個別支援計画を工夫していく。 			
		運営面	<ul style="list-style-type: none"> 年度初めに利用者全体会議を開催し、利用者同士の理解や運営状況の説明を行う。 レクリエーションも定期的で開催し、利用者の楽しみの支援と、様々なその人らしさを引き出していく。 職員の研修や情報共有、連携による支援力向上 関係機関(役所、支援機関、計画相談等)へ定期訪問、情報提供や連携を行う。 			
		経営	<ul style="list-style-type: none"> 職員体制を整え、弁当作業、軽作業ともに利用者の安定した作業や個別支援を提供できるようにする。 弁当チラシを配布し、利用者の作業量の増加と安定した工賃収入につなげる。 			
	利用日数	令和5年度予測	3,471日	評価	登録利用者の利用率が上がり、目標を大きく上回ることができた。	
		令和6年度目標	4,054日	対策	急な人数増加で大きく雰囲気が変わる。それぞれの利用者が安心して通所できる作業環境の工夫。	
開所日・時間		月～金			土日祝	(月)祝開所
令和7年度のイメージ	個別支援計画で、利用者のステップアップを支援し一般就労希望者をエム・ワークスへ送り出していく。平均工賃1万円以上を維持する。					

事業所名		六甲倶楽部		定員	10名	管理者名	矢口雅也
事業名称		就労継続支援B型			障害種別	精神・知的・身体	
スタッフ体制		管理者1名（兼務）、サビ管1名（兼務）、職業指導員1名、生活支援員2名（非常勤）					
令和5年度 事業総括	主な事業計画の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> お菓子作業はチラシを作成し近隣の方々からの問い合わせや関心を持ってもらい、注文を頂くことも出来た。 就労希望をしていた利用者は就労移行サービスに繋ぎ、生活面での課題があった利用者には必要なサービスが提供出来るよう関係機関との連携を進めることが出来た。 咲くら工房や他の事業所との連携をし、利用者の得意な事を活かせるような作業の提供も行う事が出来た。。 					
	上記に対する拡大/改善課題	<ul style="list-style-type: none"> オーナーからの家賃値上げの通告により、来年度より主にひらめの家と統合し新たなスタートを切る事になり、お菓子作業の継続を断念する事になった。 					
令和6年度 事業計画案	基本方針	[令和5年度末をもって事業閉鎖]					
	取組内容	支援面					
		運営面					
		経営					
	利用日数	令和5年度予測	日	評価			
		令和6年度目標	日	対策			
開所日・時間					土日祝		
令和7年度のイメージ							

事業所名		ひらめの家		定員	20名	管理者名	矢口雅也
事業名称		就労継続支援B型		障害種別	精神・発達・知的・身体		
スタッフ体制		管理者1名,サビ管1名,職業指導員1名,生活支援員1名(非常勤),目標工賃1名					
令和5年度 事業総括	主な事業計画の達成度評価	地域に向けての活動や音楽活動等はほとんど出来なかったが、土曜開所や他事業所(リ切尔カ)とのスポーツ交流会、カラオケレク等を実施した事により、利用者同士繋がりのを求める気持ちを知る事が出来た。また、簡単な複数の下請け作業に柴田(株)の職人的な難易度の高い新規作業も加わり、各利用者の得意・不得意に合った作業を安定して提供する事が出来た。利用者同士の関係性も良く、基本方針である「利用者同士が個性や能力の違いを認め合い、お互いに尊重し合える明るく温かみのある運営」は達成できたと思う。					
	上記に対する拡大/改善課題	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針はある程度達成できたものの、残念ながら利用者増加には至っていないので外部に向けてのアプローチは必要であると思うが、職員体制の余裕の無さもあり難しいのが課題となっている。 これから旧六甲倶楽部の利用者が複数名来られる予定なので、作業環境の改善や人数に見合う作業量の確保が必須になる。 					
令和6年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 「仕事」や「レク」を通して利用者同士が個性を認め合い、かつ尊重し合い、和やかな雰囲気の間となるような事業所運営を行う。どの下請け作業も大切にして、利用者同士が協力し、各自が主体となって作業を進められるようコミュニケーションを取ってもらえる環境を作る。また、安定した作業提供ができるよう新規作業の定着を目指す。同時に、アート作品を自主製品化する。 人や地域との繋がりを大切に、必要に応じて連携して活動する。 					
	取組内容	支援面	<ul style="list-style-type: none"> 利用者一人一人の課題を聞き取り、スタッフ間で情報を共有して家族や関係機関と連携する。 利用者同士の個性や能力の違いを認め合えるよう、作業以外にレクリエーションなどを行いお互いを理解する機会を提供する。 それぞれの得意な事を活かせるような作業の提供を心掛ける。 アート活動が好きな利用者に向けた情報収集をし、表現できる場面の設定や自主製品の開発なども考えて行く。 				
		運営面	<ul style="list-style-type: none"> 将来的に「就BⅢ型」を視野に入れた、地域の方々が気軽に入ってもらえるような空間作りなどを考えて行く。 法人内の他の事業所との連携や交流が出来るようなイベントやレクリエーションを行う。 				
		経営面	<ul style="list-style-type: none"> ひらめの家現利用者と六甲からの移籍利用者が現在のペースで利用出来るかどうかは不透明な部分があるので、丁寧にフォローしたい。 関係機関に広く情報を周知してもらえうように訪問を行う。 				
	利用日数	令和5年度予測	2,613日	評価	法人内からの新規利用者が複数名あり年間予算が見えていたが、退所や入院者等があり届かなかった。		
		令和6年度目標	2,670日	対策	支援学校新卒者を丁寧に支援して来年へ繋げると同時に、管理者が不定期でも営業活動を開始する。		
開所日・時間		月～金 9:30～15:00		土日祝	不定期		
令和7年度のイメージ	法人内の事業所との交流や連携をしながら、地域活動にも取り組んでいる。						

多機能型・一体型 事業計画(案)

	多機能型御影倶楽部	一体型咲くら工房
令和5年度 事業総括概要	<ul style="list-style-type: none"> ・エムワークスおよびリ切尔カにそれぞれ主任が配置され、管理職主任会議等での法人としての情報共有は進められた。一方で、リ切尔カ利用者が将来の進路先としてワークスに実習に入った際に、事前の情報共有の不足や支援の在り方の違いから、別法人事業所を選択するという残念な結果を招いてしまった。 ・多機能型合流イベントとしてクリスマス会やメイクアップ講座を開催したほか、リ切尔カプログラムへの他事業所の参加や御影とワークスの合同作業など、事業所の枠を超えた利用者や職員間の交流はある程度持てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・六甲倶楽部、ひらめの家との作業状況を共有して、作業量が多い太陽ブラシも、倉田紙工・創新貿易・世界のごちそう博物館のイレギュラーな作業も、3事業所で無理なく調整し下請けをもらうことができた。 ・本人、ご家族、訪問看護や医療機関と1年ほど前からケース会議を重ね一般就労を希望していた利用者が、六甲倶楽部から1名エムワークスに繋がった。 ・六甲倶楽部の家賃高騰により年度末で閉鎖をし、ひらめの家と咲くら工房で利用者を受け入れることとなった。それぞれの利用者が徐々に通所を慣らしていくことができ、六甲倶楽部での通所ペースを維持できそうな見込みである。
令和6年度事業計画(案)	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職主任間だけではなく、日常業務において職員間の情報交換や意思疎通をより円滑に進められるよう、わかばを含めて職員が気軽に集まり話をする機会を積極的に持つ。 ・リ切尔カ利用者の卒業生として初めての御影倶楽部利用者の支援が始まるので、スムーズな移行のため職員間で引継ぎを行う。それ以外にも将来的にエムワークスへの送り出しを視野に入れた利用者間の交流(プログラム・セミナー・合同イベントや共同作業等)および職員間の連携を強化する。 ・年度途中および来年度新規利用者の確保のため、支援学校、関係機関、クリニック等に各事業の支援の特徴や内容を伝えるために積極的に訪問する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・咲くら工房、ひらめの家それぞれ定員20名の新たな一体型咲くら工房のスタートとなる。引き続き作業面では下請けの連携を行っていく。 ・咲くら工房では、軽作業と弁当作業を通じて平均工賃1万円以上を維持し、一般就労希望者にはステップアップを支援していく。 ・ひらめの家では、下請け作業を行いながら地域交流やレクリエーション、アート活動などにも力を入れ、利用者のペースを大切にしながら幅広いニーズに応えていける運営を行っていく。 ・上記2件の動きについて、両事業所間で異なった視点で意見交換を繰り返していく。

事業所名	地域活動支援センターわかば	定員	20名	管理者名	松田里佳子	
事業名称	地域活動支援センター(センター型)	障害種別	精神(発達障害含む)・知的・身体			
スタッフ体制	センター長1名・指導員2名(内非常勤1名)					
令和5年度 事業総括	主な事業計画の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者がわかば以外の社会資源に繋がるための支援ができた。 ・サテライト開所「出張わかば(月1回)」を開始することができた。 ・本部建物内において利用者支援やプログラムで連携できた(「家族サロン」を御影倶楽部家族会と同日開催、リチエルカとの合同プログラム実施)。 ・今年度も自己表現や障害者理解の啓発につながる活動に参加できた(神戸国際大学講義に語り手として参加、HUG+展への出品[グループ、個人])。 				
	上記に対する拡大/改善課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新規利用者定着のための方法を考え、関係機関との連携を強化する。 ・「出張わかば」の発展的活用を進めると共に医療や関係機関への周知を図る。 ・「家族サロン」以外の家族支援の方法について法人内他事業所と共に検討する。 ・引き続き、利用者の自己表現や社会参加に繋がる活動をサポートする。 				
令和6年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・障害種別に関わらず地域で生きづらさを感じる人が利用できる場所となる。 ・利用者だけでなく家族にとっても安心できる相談場所となる。 ・医療や関係機関と連携して困難ケースも受け入れる。 				
	取組内容	支援面	<ul style="list-style-type: none"> ・本人や家族にとって安心できる居場所、様々な経験や交流・学びを通して自身や他者に対する理解を深める場所となるよう工夫をする。 ・体験利用中や登録直後の支援体制を強化し、安心して利用継続できるようにサポートする。 ・「出張わかば」の居場所機能とイベント機能の両面を工夫して、様々な利用者が参加しやすいものとする。 ・発達障害者東部相談窓口と連携して、まだ利用に至っていない対象者を地域活動支援センターに繋ぐ機会を作る。 			
		運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携して障害種別に関わらず安心して利用できる事業所運営を行う。 ・業務分担や事務作業の効率化を図る。 ・今回の公募で追加された「作業」について、地域活動支援センターとして社会参加への興味や自信を育てる機会となる実施方法を考える。 			
		経営	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者から徴収するプログラム費を有効活用し、プログラムの内容を充実させる。 ・事業所運営に関わる経費について意識する。 			
	利用日数	令和5年度 予測	1,830日	評価	登録者数に変化はないが、新規利用者が定着せず、頻度の減った利用者分を埋めるには至らなかった。	
		令和6年度 目標	2,000日	対策	体験利用中や登録直後は特に細やかな対応や支援を心がけ、関係機関とも連携して定着を図る。	
開所日・時間		月・火・水(第2/第4)・木・金 ・日(隔週) 10:00~16:00	土日祝	日曜(隔週)開所 土曜定休		
令和7年度の イメージ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動支援センターでの「作業」の目的と効果を明確にした上で実施している。 ・発達障害者東部相談窓口との取り組みがスタートして、新たな利用者を受け入れている。 					

事業所名		地域活動支援センターあんず		定員	20名	センター長	林紡
事業名称		地域活動支援センター(センター型)		障害種別	精神(発達障害含む)・知的・身体		
スタッフ体制		常勤2名、非常勤1名					
令和5年度 事業総括	主な事業計画の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナによる生活の制限が緩まり、利用者の提案やニーズに応じたプログラムを行う事ができた。 ・就労系の事業所等に通うようになった利用者が続いた事もあり、全体の利用者数は例年より減少傾向にあったが、ステップアップした利用者に対しても電話や面談での心理的な支援を継続することができた。 ・地域の関係機関と連携して利用者支援を行う事ができた。地域住民との関わりは少なかったが、自治会への参加は継続している。 					
	上記に対する拡大/改善課題	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き利用者の声を積極的に取り入れながら、主体的に参加できるプログラムを運営する。 ・利用者の入れ替わりが見られるが、新たな利用者にとっても安心して過ごせる居場所になるよう、一人一人への丁寧な支援を行う。 ・ここ数年コロナの影響で地域との繋がりが薄くなっていたが、来年度は地域の方にあんずをより知ってもらえるような取り組みを検討する。 					
令和6年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人一人の多様なニーズに合わせた丁寧な関わりを通して信頼関係を構築し、利用者のリカバリーやQOLの向上を支援する。 ・地域の関係機関と連携を深め、地域の中で居場所を求める対象者が気軽につながる事のできる社会資源となる。 					
	取組内容	支援面	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が安心して過ごせ主体的に活躍できる場として、またお互いがプラスの相互作用をもたらす事ができる場としての機能を今後も維持する。 ・就労等を目指す利用者に対しては、関係機関と連携を取りながら主体的な選択ができるよう支援し、その後も心理的な支援等を継続する。 ・発達障害者東部相談窓口と連携し、オンラインを活用して引きこもりがちな発達障害者が参加できるプログラムを行う。 ・職員それぞれが研修参加などを通して専門職としてスキルアップし、情報共有をしながら事業所全体で支援の質の向上を目指す。 				
		運営面	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携して、地域の中での地域活動支援センターの持つ役割を果たす。 ・業務を効率よく進められるよう分担し、職員がそれぞれの能力や長所を十分に発揮できるよう職場環境を整える。 ・今回の公募から明確に追加された「作業」について、地域活動支援センターとして社会参加への興味や自信を育てる機会となる実施方法を考える。 				
		経営	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者から徴収するプログラム費を有効活用し、プログラムの内容を充実させる。 				
	利用日数	令和5年度予測	1,880日	評価	例年より少なかった。就労等にステップアップした利用者が続いたことも要因の一つだと考える。		
		令和6年度目標	2,000日	対策	新規利用者が定着しやすい働きかけや環境づくりを行う。		
開所日・時間		月・火・水(第1/第3)・木・金・土(隔週) 10:00~16:00		土日祝	土曜日(隔週)開所		
令和7年度のイメージ	発達障害者対象のプログラムなど、新たな取り組みを定着させ、より多様なニーズへ応えられるような場所となる。						

事業所名	いろは		定員	若干名	管理者名	松田里佳子
事業名称	指定特定相談支援事業			障害種別	知的・精神（発達含む）	
スタッフ体制	常勤2名（兼務）					
令和5年度 事業総括	主な事業計画の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> 2名の職員がそれぞれケースを担当することができた。 連絡会や研修に参加する機会が持てた。 計画相談に至らない社会資源や制度の電話相談に対応できた。 				
	上記に対する拡大/改善課題	<ul style="list-style-type: none"> 事業所として受け入れケースの追加を検討する。 研修参加の機会を確保して専門性を高める。 障害分野に限らず地域の課題やニーズを把握するための繋がりや学びの機会を作る。 				
令和6年度 事業計画案	基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 計画相談の形にこだわらず、地域の相談窓口としての役割を担う。 「本人主体」を大前提に、利用者が地域で自分らしい生活が送れるよう支援する。 				
	取組内容	支援面	<ul style="list-style-type: none"> 利用者や家族の願いや不安に寄り添った丁寧な支援を行う。 支援者間の円滑な連携のために、相談支援事業所としての役割を担う。 			
		運営面	<ul style="list-style-type: none"> 業務の分担や効率化を図り、兼務によって生じる負担を軽減する。 無理のない範囲で加算取得を目指す。 			
		経営	<ul style="list-style-type: none"> システム使用料を含む事務費用の一部が賄えるように努力する。 			
	利用日数	令和5年度予測	2ケース	評価	職員2名がそれぞれケースを担当することができた。	
令和6年度目標		3ケース	対策	業務の効率化を図った上で職員2名が協力し、事業所として受け入れるケースを増やす。		
開所日・時間		月・火・木・金（10：00-13：30）	土日祝	休み		
令和7年度のイメージ	兼務状況や業務に少し慣れて、事業所全体で3～4ケースを担当している。					